

東京経済大学報

2017年度 第50巻 10月臨時号



撮影：矢野 剛仁



特集

『グローバル化の進む 東京経済大学』

コラム

- 教員リレーコラム 私の★研究
- 職員リレーコラム 私の★オシゴト
- 学生コラム・留学生コラム ほか

CLOSE UP

- メディア工房 リニューアル！

2020 年に向けたチャレンジ！

踏みとどまった今年を来年のバネに
～第94回箱根駅伝予選会

本学の前身・大倉商業学校の創立者である大倉喜八郎は外国との貿易を目指し、1873年に大倉組商會を設立、翌1874年には英国のロンドンに海外支店を設けます。これは、日本の企業としては初めてとなる海外拠点の設置でした。

こうした創立者の気概を受け継ぐ本学では、その理念に「実践的な知力を身につけてグローバル社会で活躍する人材の育成をはかる」ことを掲げ、また理念を踏まえた目的のひとつでは

「地域や社会、世界に開かれた大学を目指す」としています。

本学に学ぶ学生をグローバル人材として世界に送り出すと同時に、世界に開かれた大学として学内にグローバルな環境を作り上げていく。そのために2014年には「国際化ビジョン」を打ち出して一層のグローバル化を推進しています。ここでは、2014年以降、近年のさまざまな取り組みを紹介していきます。



キャンパスの国際化

海外の大学との提携が進んできている一方で、本学で学ぶ留学生の出身国・地域もだんだんと多様化してきています。これまで同様に中国から多くの留学生が来ていることは大きく変わりませんが、徐々に他のアジア地域からの留学生も学びに来るようになっていきます。

2017年度は、キャンパス内を日本、中国、韓国、台湾、マレーシア、ベトナム、タイ、モンゴル、トルコ、ネパールの学生たちが自然に行きかっているという状況です。すれ違いざまの異文化交流といったことが身近で起こるかもしれません。

英語はもちろん、それだけでない

グローバルラウンジ コトパティオ

2015年にオープンし、すでにお馴染みの施設となってきた「グローバルラウンジ コトパティオ」。これも近年の国際化のひとつです。英語ネイティブのスタッフとのフリートークは気軽に海外疑似体験ができるとあってリピーターも続々。もちろん初めて利用する方も大歓迎とスタッフたちは心待ちのようすです。最初からフリートークは敷居が高いと感じたら、まずはゲームに参加することから始めることも。

「コトパティオ」では、今年4月から英語ネイティブのスタッフが1名交代しましたので、アメリカ合衆国ミズーリ州出身の新スタッフ、ジェイソンから自己紹介の一言メッセージをお伝えしましょう。

check!!

「留学生サークル」は頼れる存在!

「コトパティオ」を拠点にした学生サークルが活動しています。留学生を主体に日本人学生も加わってメンバーは総勢で50人ほどのこのサークル、いたってシンプルな「留学生サークル」という名称ながら、学生たちの国際交流にはひと役買う存在となっています。

学生ポータルで発信される日本語の情報に戸惑う留学生に説明したり、留学生のためのよろず相談所ともいべき「留学生ヘルプデスク」をコトパティオに開設したりしています。

また、サークルの代表である陳 鴻泉(タン ホンチュアン)さん(コミュニケーション学部3年)は「コトパティオ」の英語スタッフという役割も果たしています。直接、英語でコミュニケーションしてみたいけれど最初から英語ネイティブ・スタッフが相手では気後れする。そんな気がしたときには、同じ大学生である陳さんに話しかけてみてはいかがでしょうか。マレーシア出身の陳さんは、マレー語、中国語、英語、そして日本語に通じているだけに、一度の機会が思いがけない異文化理解の広がりとなるかもしれません。



陳 鴻泉さん



Jason ジェイソン

(アメリカ合衆国ミズーリ州出身)

I'm Jason Gatewood, and I'm the instructor at Cotopatio. I'm from St. Louis, Missouri in the USA, but I lived in Atlanta, where I made TV commercials, and news videos. My favorite things about Japan are trains, music, ramen, and nature. Please come to Cotopatio and tell me your favorite things, too!

ところで・・・

繰り返し言うまでもなく「コトパティオ」は「グローバルラウンジ」です。英語だけのスペースということではもちろんありません。これまでに「チャイニーズアワー」や「ハングルアワー」といったイベントを開催してきました。今後さらにどんな多言語化を展開していくか、「コトパティオ」のイベントには目が離せません。

チャイニーズアワー・ハングルアワーも
参加をおまちしております!

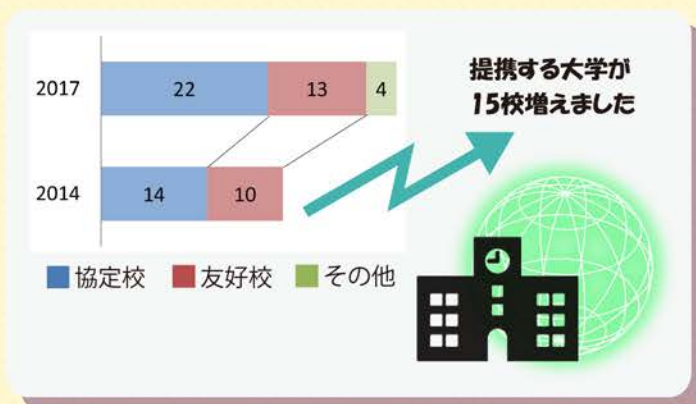


海外の大学との提携

本学が「国際化ビジョン」を定めた2014年度には、海外における提携大学は協定校14校、友好校10校の24校でした。これが2017年度には協定校22校、友好校13校にその他の4校を加えて39校になっています。

＊「協定校」とは学生交換留学などを、「友好校」とは語学研修や研究者レベルでの交流を行っています。「その他」は学生研修団の派遣や受入れ等の交流実績のある大学です。

「国際化ビジョン」には2014年度段階で中国3大学、韓国1大学にとどまっていた「大学院海外指定校制推薦入学」の指定校の拡充を掲げたことから、積極的に海外の大学へのアプローチを続けてきました。始まりは大学院への指定校ということでしたが、訪問した海外の大学で本学への理解を深めてもらうために講演や説明を重ねるにつれ、大学院指定校のみならず研究交流や学部生の交流をも含めた協定締結へと話は進み、その結果が左のグラフに見られるような提携校の増加につながりました。



当初は中国の大学を中心に海外の大学への訪問を重ねてきましたが、今ではタイやベトナムといった東南アジア地域にも広がりを見せるようになっています。

近年始まった大学間交流として ～泰日工業大学

近年広がりを見せた海外とのネットワークのひとつの例として、2016年3月に「学術教育交流(学生交換)協定」を締結した泰日工業大学(タイ・バンコク)との関わりをご紹介します。

「それにしても、工業大学？」と思われるかもしれませんが、泰日工業大学は工学部、情報学部と並んで経営学部も開設している大学です。また、同大学は「グローバル時代を迎えたタイ産業、とりわけ日系企業のニーズに対応して日本的ものづくり思想のもと、専門能力、語学(英語・日本語)、コミュニケーション力、管理基礎力、ビジネス実務の基となる社会人基礎力に焦点を当てて学生を育成」することを「履修課程の特長」(同大学HPより)として掲げていることから、日本との関わりが極めて深い大学といえます。

そのような泰日工業大学との関係は、早くから経営学部のゼミが海外ゼミ研修で訪問し、その後も経営学部を中心に交流が深まっていきました。2016年には協定締結から間もない5月、同大学から早速に7名の短期留学生を本学に迎え入れることにもなりました。写真はその時のウェルカムパーティーの様子です。こうした行事のひとつひとつが国際交流の機会として、今後もキャンパス内でたびたび催されていくことでしょう。

中国、アジア、 そしてフランスからも?

中国、そしてアジアへと広がりを見せる本学の海外ネットワーク。大学とのつながりを大事に育んできていますが、こちらは留学生にダイレクトに訴えかける取り組みです。

これまでもフランスからの留学生と本学を結び付けてくれたことのある日本語学校と業務委託契約を締結。フランス国内での説明会などを通じて東経大の広報活動を展開してもらっています。7月にパリで「Japan EXPO」が行われた際にも東経大を知ってもらえる資料を配布。キャンパスの多彩な顔ぶれの中にフランスからの留学生が日常的に加わることも近いのでしょうか。



ウェルカムパーティーの様子

なかなかできない経験だからこそ～

培 材大学での インターンシップ

韓国の培材大学との間でインターンシップ学生を交換する協定を締結したのは2015年度。これによって、培材大学から派遣されたインターンシップ生は東経大の事務部署などで、また本学派遣のインターンシップ生は培材大学国際交流処や同大学の所在する大田市国際交流センターなどでそれぞれ就業体験するという制度ができました。

海外の教育機関でインターンシップを経験できる機会がそうそうあるわけではありません。むしろ、あまり経験することのできないようなことをしたいのならば、トライしてみてはいかがでしょうか。

2016年にこのインターンシップを使って韓国から来た学生たちは、就業体験の一環で本学の国際交流課で勤務した際、国際交流課のメンバーにインタビューを行いました。これに応えた国際交流課員から「海外に対して、もっと関心を持ってほしいです」、「いろんなプログラムが用意されており、是非たくさん使って英語力アップにつなげてくださいね」という本学学生へのメッセージがありました。培材大学でのインターンシップばかりでなく、国際交流のメニューは豊富。使わない手はありませんね。

短すぎず、長すぎず～

半 期留学制度、できました！

海外ゼミ研修や語学留学などに出かけてみて、もう少し長い海外経験がしたいけれど、1年間の長期留学では長過ぎて少々不安と考えることもあるのでは。そんなときには、以前であれば制度が無いとあきらめざるを得ませんでした。が、「協定校半期派遣留学」という半年間の留学制度が今年、2017年度にスタートしたことをご存知でしょうか。

協定校のうち7つの大学で半年間の留学が可能になっており、長期留学では大きな壁になることの語学の要件が基本的にはありませんので、海外への扉はかなり大きく開かれたと言えるのではないでしょうか。アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、中国の大学が東経大生の半期留学を待ち受けていることでしょう。

国 際交流ガイドブックを 見てみよう！

ここで取り上げた近年の取り組み以外にも、学生のみさんの海外体験を後押しする制度が本学にはたくさんあります。期間の短い研修から長期留学まで豊富なメニューを網羅した冊子がこのほど出来上がりました。大学生の間だからこそできる海外での経験を「国際交流ガイドブック」で探してみたいのではないでしょうか。国際交流課(6号館2階)ほかで配布しています。



国際交流課でお待ちしています！

語学研修も地域交流も～

豪 マリオン・フリンダース地域 交流プログラム

2014年度から新たに設けられた「豪 マリオン・フリンダース地域交流プログラム」。語学研修として集中的に英語を学べることはもとより、市長訪問や地元の人たちとの地域交流を通じて現地の社会や文化を学び、国際理解を深められる点が特徴となっています。

過去3年の参加者は延べで55名。夏季に実施されている英国・チチェスターカレッジでの研修とは季節を変えて2月に実施されるこの研修も、東経大生の国際性を磨く機会として定着していくのではないのでしょうか。



どうしてオーストラリアのマリオン市？ ～国分寺市国際協会との連携

語学研修先となるフリンダース大学は南オーストラリア州の州都アデレードにあり、マリオン市はアデレードの郊外に位置しています。実はこのマリオン市、本学が所在する国分寺市とは国際姉妹都市の間柄で、それぞれに交流行事などを行いながら来年2018年には姉妹都市提携締結25周年を迎えますが、そうした地域の国際交流において市民レベルでの交流の窓口となっているのが国分寺市国際協会です。歴代の会長には本学の教員が就任(現在の会長は若尾良男経営学部教授)しており、その関係もあって本学とマリオン市やフリンダース大学との間に交流が生まれました。国分寺市国際協会には、本学が海外の協定校などから研修生を受け入れて日本語や日本文化に関する研修を行う「TKU Japan Study Program」などでも協力を得ており、本学の国際交流に多様性を提供してくれています。



私の★研究

コミュニケーション学部
客員教授 芳賀 啓

「研究」というほどのものでもありませんが



偶然のなりゆきから出版と地図の世界に入りこんで44年、その延長に近年「お散歩の先生」や「崖博士」などという渾名を頂戴するに至ったのですが、元来研究者でもなく、数冊の著作はあるものの学術書とも言えずエンターテインメントでもなし、諸雑誌への寄稿や書評もどちらかといえばエッセイの類でしょう。

しかしながらこれまた思いもかけず本学教員の末席に連なつて、はや2年半目。さらなるサブライズは当コラム二番手として堺学長のご指名を頂戴したこと。そろそろ自分の「研究」をきちんとまとめなさいという督促でしょう。

とまれ、私の「研究」らしき痕跡は、日本国際地図学会(現日本地図学会)機関誌『地図』に「東京の旧版大縮尺地図とその利用について」を報告(Vol.43,2005)、また同誌に「地図と古地図の狭間」と題した特別講演記録(Vol.49,2011)が掲載されたり、「井上ひさし氏にみる作家の方法——地図・年表・名鑑」という短報(Vol.49,2011)を投じたりといった程度です。

一方、2016年朝倉書店から刊行予定の『地図の事典』への執筆依頼が、日本地図学会会長森田喬さん以下何人かの編集委員の連名で届いたのはたしか2014年の秋頃だったと思います。その全体構成や項目一覧を見てあまり感心しなかったものだから「本が出来たら書評を書くから」と一旦は断つたものの、結局は「想像地図」「場所の記憶としての地図」「地図帳の歴史」「地図の個人コレクション」の四項目については引

き受けざるを得ず、調査にひと夏かけて脱稿、締切の2015年9月には出版社にメールで原稿を送ったもののいまだに音沙汰ありません。けれどもジテン(「事典」「辞典」「字典」という「権威」ある(べき)出版形式にふさわしいように、限られた文字数のなかに凝縮した内容と新しい知見を盛り込んだつもりですから、これも私の「研究」の一環と言つていいでしょう。

しかしながら、いずれにしても、膨大な文献精読と批判の上に構築される建造物のような「研究」にはほど遠いものがあります。本学での講義・演習のすべてに「歩く・読む・書く」を掲げている私の「研究」の流儀は、「業績」であるよりは学術のエッセンスを身体的行為へブリッジするその過程にある、と強弁したいところですが、最近邦訳成った Rebecca Solnit の Wanderlust - a history of walking(邦題『ウォークス—歩くことの精神史』)を読むと、そんな言い訳は吹っ飛んでしまいます。

2008年施行の「地理空間情報活用推進基本法」以降、すべての地図がデジタルに置き換わりつつある現在、「場所の証言」としての紙地図、なかでも1910年頃から主要都市部に作成されてきた1万分の1地形図の存在は重要です。それを掘い(救い)、伝えていく「研究」こそ、私に課された宿題かなと思つている昨今です。

次号は・・・コミュニケーション学部
准教授 松永智子先生です

私の★オシゴト

総合企画部長
二瓶 司

「これまでの仕事、これからの仕事」



一九八三年、株価や地価が異常に上昇したバブル景気の少し前、私は東京経済大学事務職員となった。その頃の成績表の作り方である。

採点され番号順に紐で綴じられた答案の束を何冊も並べて、私が厚紙の成績原簿を前に「一番、東経太郎」

職場の先輩は、その名前の答案を探し「国際経済論、A」それを聞いて、私は原簿に評価のハンコを押していく。

うっかりすると「すいません、Aが横向いちゃいました」「何やってんだ、すぐ直せ」と叱られる。

履修者名簿を作るためには、全学生の履修届から、その科目を届け出ている学生を探し名簿を作るしかない。ワープロはないので、もちろん手書きである。猛烈に時間がかかる。連絡手段は固定電話が郵便である。今から考えると信じられないかもしれないが、わずか三十数年前事務の仕事はこんな感じであった。ここから急激な変化が訪れる。

第三次産業革命とも言われる、コンピュータの普及である。膨大なデータに誰もがアクセスできる、何でも機械で調べられる時代の到来である。コンピュータ普及以前、忠臣蔵四十七士の名前を知りたければ、図書館で索引カードを引き引き、本を探し、悪戦苦闘しなければならなかったが、今はパソコンにキーワードを入れれば、結果

がたちまち表示される。おそろしく便利になった。大学の事務作業も大きく変わり、ハンコや手書き資料はすっかり姿を消した。蒸気機関の発明に代表される第一次産業革命、石油エネルギーへの転換、電気の普及による第二次産業革命に匹敵する大きな社会変化が、私の職場にも押し寄せてきたのだ。

さらに第四次産業革命があるらしい。これまでは人間が機械を運用していたが、これからはAが機械を自動制御する。人間の仕事の多くがAやロボットに取って代わられ、十年後には今ある仕事の七割がなくなるとも言われている。第一次・第二次産業革命を経て、労働者は歯車化し人間性を喪失した、人間疎外が起こっているなどと叫ばれていたのは今から三十数年前の話である。今や、人間はスマホを手放せず、あたかも人間は機械と一体化してしまつたかのようだ。

将来を見通すことが難しい時代なので、十年先の仕事はどうなっていくのかを思い浮かべるのは容易ではない。私は本をたくさん積みあげて、忠臣蔵四十七士の名前を調べるような面倒だが喜びに満ちた仕事が好きなので、今後もこういった仕事に残つていくと欲しいと思うのだが。

次号は・・・総務部長
武末直子さんです

職員★リレーコラム 第2回

教員★リレーコラム 第2回

学生コラム

『大学生生活を振り返って』

大久保 俊哉
経営学部4年

本学で過ごした4年間は私にとってとても貴重な時間となりました。その中でも部活動・学生団体の活動は、特に大学生活を楽しいものとし、自分を成長させてくれた大切な経験です。

私はワンダーフォーゲル部、主に山登りをする部活動に所属していました。大自然の中「非日常」を部活の仲間たちと共に味わえる登山は、大学生活を充実させてくれた要因でした。特に2年生の夏、北アルプスの山々を十二日間歩き切った合宿の充実感とやり切った感動は今でも忘れられません。

また、私は縁あって学生団体の体育会と今年度の新入生歓迎実行委員会の一員を務めさせていただきました。

体育会では会計局長として所属各部の予算の管理や、決算報告の作成などを行っていました。時には社会人の方々と共に、会議の会計資料の作成やイベントの運営の打ち合わせなどを行うことが出来ました。体育会の仕事を通して、社会人の方々と共に仕事をしたり、会計関係の資料を作成したりするなど、普段の学生生活をしていては味わえない貴重な経験を積むことが出来ました。体育会の仕事は言わば「事前に社会人を体験できる」とても貴重な体験だったと思います。つらいこともありましたが、やってきて良かったです。

新入生歓迎実行委員会では、副委員長を務めさせていただきました。今年度は約1700名もの新入生への歓迎行事を無事

に終わることができたときは、本当にやって良かったと思います。課題が残る部分もありましたが、現在は来年に向けて次の実行委員をサポートし、今年度以上に新入生を迎え入れる体制を強化できるように努力していきたいと思っています。

そして、本学に入学し私は様々な方々にお世話になりました。いつも笑顔でいさせてくれた友達、勉強を教えてくださいました先生方、学生課やキャリアセンターなどが私が苦しい時にいつも親切に丁寧に対応していただいた職員の方々。多くの方々に支えられて充実した大学生活を送ることが出来たと思っています。感謝しています。

本学に入学できたことで得られた経験や大切なものが数え切れないほどあります。どれも今後社会に出ていく上で必ず大切なものばかりです。本学に入学でき本当に良かったと今胸を張って言えます。私は、来年から幼いころから大好きだった「劇団四季」の経営担当者として社会に出ます。本学で得た学び・経験を生かし、社会人として新たなスタートを踏み出したいと思っています。



留学生コラム

『選択から勉強を』

ロメイリユウ
呂 銘龍
経済学部3年

五年前、観光で日本に初めて来ました。当時、日本はどのような国なのか、ほとんどは子供の頃から残った印象で、マンガやアニメなどから知っていたものでした。まさか、翌年、日本での留学を始めることまでも夢のように感じています。

日本語学校では有意義な一年半を過ごしましたが、日本語能力と文化をよりマスターするには時間が短く感じて、次の道に進まないといけないと考えた時期でした。その時、専門学校か大学か、どちらかを選択することになって、台湾で大学に通わなかった私は迷ったものでした。もう若くない年齢で、いまさら大学に挑戦するのは多少遅いと自覚していましたが、よく考えたら、日本語学校の先生とも相談した結果、大学の進学を決め、東京経済大学での生活を送り始めました。今から振り返ると、やはり大学進学を選択したのは正解で、現在三年生の私は大学に進学する前の私と比べ、完全に別人だという気がしています。

今までの一年半を通じて、留学生はもちろん、積極的に日本人の学生と交流し、接触を深めていくのは最初の目標でした。しかし、文化の差は存在するもので、うまくいかない場合もよくあります。やはり自分の日本語力はまだ足りないのか、お互いはまだ理解しあっていないのかなど、理由も探求してみました。後から考えると、それは根本的な問題なのだろうと考えます。人と人のつながりは本来、無理せず、自然に任せるものであって、いわば「縁」ということだと思っています。このことに気がついた私は気分転換をし、他人との会話がうまく進んでいくようになった気がしました。やはり以前は考えすぎだったと気づいたあとは、学校での友達も増えて、より大学生らしく楽しんでいます。

二年生の時にはゼミにも入りました。自分は留学生なので、日本人学生が多いゼミ活動は大変かもしれませんが、周りのゼミ生達は私の面倒をよく見てくれて、本当に感動しました。自分もできるだけ頑張って学力を上げ、役にも立つようにいろいろな勉強をしました。発表、パワーポイントでの資料作りなどを通じて、ゼミ生達と仲良くなるのは私にとって一番の収穫だと感じました。このゼミに参加することでいろいろな経験をすることは、人生の財産と言えるでしょう。

今後の展望として、日本のすべてをより理解していくため、日本で就職しようと思いましたが、その場合、大学で学んだことはかなり重要になります。これからの残る一年半はそろそろ新たな選択をするべき時期になってきますが、今までの経験を踏まえてやっとたどり着いたことは一つ、「間違った選択はない。その選択の中で何かを獲得するならいい選択なのだ」ということです。日本留学、大学進学、日本文化の理解、ゼミへの参加、今までの選択は全部ベストでしょう。社会に出ても、この精神を持ち続けるようにしようと考えています。



近頃、運転免許をAT限定で取得する人が増えているという。それもそのはず、現代では、街で見かける車の9割がAT車であると言われている。クルマ産業の技術進歩はめざましく、新たな技術を逃さぬようにと自動車メーカーは常に目を配っている。その中でも、特に注目されている技術が『自動運転技術』である。これまでの車にも、自動ブレーキ機能やオートクルーシング機能などが備わってきた。しかしついに、運転者がハンドルから手を放す時代が来たのである。

自動運転技術を搭載したバスやタクシーなどの試験運転が行われたというニュースを最近よく耳にするのではないだろうか。コンピュータが周囲の状況を即座に判断して、効率的な道を選択し、アクセル、ブレーキ、ハンドリングを調節してくれる。なるほど、確かに便利で快適そうであるし、アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故、スピード超過による事故などが格段に減りそうだ。運転に対する「免許」制度も見直されるだろうし、クルマ産業は今より活発化しそうだ。

しかし、当然ながら問題点も多数存在する。大きな問題点としてよく挙がるのは、万が一事故が起きた時の責任の所在やセキュリティの問題、自動運転技術そのものへの不信感である。これらの問題点を解決しなければ、自動運転技術の普及はなかなか難しそうだ。そして、数ある問題点の中でも、私が特に気になっている点は、公道上での暗黙の了解をコンピュータが判断できるのかということである。

運転をしていると、しばし合理的な判断ではない場面に遭遇することがある(例えば、対向車が右折する場合に道を譲るなど)。また、本来の意味とは別の意味で使用されている機能もある(例えば、サンキューハザードやパッシング)。私は、運転者相互のコミュニケーションで成り立っているこれらの文化が好きだし、思いやり運転にも繋がっていると考えている。

だからこそ、自動運転技術によって、運転者同士のコミュニケーションがなくなってしまうことに懸念と寂しさを感じている。自動運転技術は確かに便利そうではあるが、全自動にする必要はないのではないだろうか。例えば、駐車時に起きやすい踏み間違えの危険は、自動運転機能の自動駐車機能を利用すれば格段に減らせそうだ。使いどころを利用者が考え、選択できる方が良いのではないか。ともあれ、優れた技術を利用するには、それを利用する側も共に賢くなっていかなければならないようだ。

活躍する卒業生と出会うチャンス！ 『業界別懇談会』等で一步先へ！！

自分に合う仕事や会社を見つけることは難しいことですが、各業界で活躍する卒業生と出会い、業界や企業、仕事の話を知ることができる貴重なチャンスを紹介します。ここでの出会いが将来を大きく変えるきっかけになる学生も多くいますので、積極的に参加してみましょう。

校友センター
(父母の会・葵友会)
からのお知らせ

★大倉進一層キャリア塾・葵友会若手交流会コラボ企画

大倉進一層キャリア塾とは本学の2・3年生でキャリアに興味を持つ学生を対象に、本学の若手・中堅の卒業生を招き、仕事の醍醐味を学ぶ自主的な勉強会です。企業や社会人生活について、本学の若手卒業生からいろいろな話を聞いてみましょう。

日時：11月16日(木)18:00～

場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)

第一部：講演会「現場に行っておそわかる事実がある。」(写真家・ハービー・山口氏 73年卒)

第二部：懇親会(立食パーティー)

参加費：無料(定員50名・先着順)

※申込は校友センター(進一層館B1F)まで



★葵流通会懇談会

商社、小売、物流など流通業に関わる卒業生の団体です。毎年多くの学生が参加し、多くの先輩たちと出会います。業界全体が見えづらいためこそ、生の声を聞く価値があります。

日時：11月9日(木)18:00～

場所：アルカディア市ヶ谷
(私学会館)

参加費：1,000円

※申込は
キャリアセンター(6号館2F)まで



★葵金融会懇談会

金融関係の仕事に関わる卒業生団体。学生の人気も高く、就職希望者の多い業界の一つです。学生にとって未知の世界で活躍する卒業生の話は、とてもためになります。

日時：12月2日(土)12:00～

場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)

参加費：1,000円

※申込はキャリアセンター(6号館2F)まで



CLOSE UP

5年ぶり、メディア工房リニューアル！ - 最新 iMac 導入。4K 高精細映像の編集もうらくらく！



6号館地下1階にあるメディア工房には、映像制作に関するあらゆる機材、設備が揃っています。そのメディア工房で、5年ぶりにリニューアルが行われ、最高スペックのiMacが導入されました。向こう5年間のメディア制作環境の基盤となるよう、4K高精細映像の取り扱いも考慮し、高度なメディア制作を快適に行える環境が十分に整備されました。例えば、データ量の大きい高精細

映像の編集が容易になり、エンコード等の処理が各段に早くなりました。外部インターフェースも高速対応化し、学生のみなさんが撮影した動画を持ち込んで編集する際もストレスなく作業を行えるようになりました。



また、MacOSも新しくなり、最新のソフトウェアを導入しやすい環境となりました。今後は便利で充実したソフトをそろえていく予定です。

リニューアル前からメディア工房を利用する学生(コミュニケーション学部2年)からは「今まで動作が重くて作業しにくかったソフトもあったが、リニューアルで快適に利用できるようになった」との声も聞かれ、最新のiMac、OS、ソフトウェア導入による快適さが、早くもあらわれています。

最新のiMacは24台導入され、主にコミュニケーション学部の「メディア制作ワークショップ」「卒業制作・卒業論文」「演習」などで利用されます。地下1階の階段付近にある案内板で、授業での利用状況が確認できます。学部・学年を問わず、空いていれば利用できます(機材の貸出し等を受ける場合は受付に申し出てください)。ぜひ、最新のiMac、ソフトウェアを利用・活用してください！

取材：学生記者 コミュニケーション学部1年 植田 啓太

設置された機種の概要

- 27インチ iMac(2017) Retina 5K ディスプレイモデル 24台
- プロセッサ：4.2GHz クアッドコア Intel Core i7
(Turbo Boost 使用時最大 4.5GHz)
- メモリ：64GB ※11台は 40GB
- ストレージ：2TB フラッシュストレージ
※11台は 512GB フラッシュストレージ+外付け HDD 4TB
- グラフィック：Radeon Pro 580 (8GB ビデオメモリ搭載)

